

事務事業評価表（一般事業）

評価対象年度	令和 元 年度
1次評価日（主幹等）	2年3月31日
2次評価日（課長等）	2年3月31日

1 事業名	環境浄化・青少年非行防止活動事業	コード	5107
-------	------------------	-----	------

2 担当部課	部等 教育部	課等 生涯学習課	作成者 高山 理恵
--------	--------	----------	-----------

3 事業概要	目的体系	基本目標	未来の担い手を育み、生涯を通じて学ぶまち		
		政 策	生涯学習の推進	施 策	生涯学習の推進
		予算科目	環境浄化・青少年非行防止活動事業費	業務委託	なし（直営）
		実施義務	なし（選択的事業）	国県補助	なし
		根拠法令	なし		

●事業の内容（D0）

4 事業の概要等		*対象者（誰のため）、意図（どのような状態にしたいのか）
事業の概要 （簡潔に）	関係機関と連携し青少年が非行に走らないようにする。	
目的	対象者	市民
	意 図	青少年の健全育成、非行防止の推進

5 事業の実施内容		*元年度に、いつ・どこで・誰が・何を・どのように行ったか、という具体的な内容
<p>1. 青少年の非行防止活動 少年愛護委員による市内のパトロール「愛の声かけ」による指導を行った。 実施日数 83回、従事委員延べ人数261人、声かけ延べ人数97人</p> <p>2. 社会環境浄化活動 8月7日（水）午後8時から深夜パトロールを実施。岡谷署員1名に同行いただいた。</p> <p>3. 街頭啓発活動 7月1日（月） 「青少年の非行・被害防止全国強調月間」ララオカヤ前 11月1日（金） 「子ども若者育成支援強調月間」西部中学校、岡谷南高校、ララオカヤ前</p>		
前年度の課題への対応	現代の子どもたちは、SNSやネットゲームなど、使い方によっては、犯罪に巻き込まれたり、生活のリズムを崩したりする危険性と隣合わせで生活している。少年愛護委員ら、大人の立場で時代に合った活動をしていただく必要があると考え、年度当初に「子どもとメディア信州」から外部講師を招き、研修を行い、理解を深める取り組みを行った。	

6 指標の達成状況		*活動指標：この事業の規模、成果指標：この事業によって得られる住民の満足度			
区 分	29年度	30年度	元年度	2年度（予算）	
① 活動指標（指標名）	少年愛護委員のパトロール日数			単位	日
	実績値	97	79	83	
	*指標の説明	少年愛護委員のパトロール日数			
② 成果指標（指標名）	青少年健全育成協力店の数			単位	店
	目標値	582	480	480	480
	実績値	481	484	467	
	達成度	82.6%	100.8%	97.3%	
	*指標の説明	青少年健全育成協力店の数			
*目標値の設定方法の説明	岡谷市内の協力店依頼対象事業者数（既協力店含む）				

7 ア) コストの推移

* この事業にかかる費用（人件費は、1人あたり年間800万円で換算）

[単位：円]

区分	29年度	30年度	元年度	2年度(予算)
① 直接事業費	1,014,515	878,032	1,002,378	1,250,000
経常経費	1,014,515	878,032	1,002,378	1,250,000
臨時的経費				
* 臨時的経費の説明				
区分	29年度	30年度	元年度	2年度(予算)
② 人件費	2,400,000	2,400,000	2,400,000	2,400,000
正規職員の人数(人)	0.30	0.30	0.30	0.30
③ 合計コスト(①+②)	3,414,515	3,278,032	3,402,378	3,650,000
前年度比		96.0%	103.8%	107.3%
財源	3,414,515	3,278,032	3,402,378	3,650,000
一般財源				
内訳				
特定財源				
* 特定財源の説明				
④ 活動一単位あたりコスト	35,201	41,494	40,993	
前年度比		117.9%	98.8%	
⑤ コストに関する補足説明				

イ) 補助金負担金の状況

[単位：件、円、%]

補助金負担金名		29年度	30年度	元年度	2年度(予算)
県青少年愛護センター 連絡協議会負担金	件数	1	1	1	1
	金額	12,000	12,000	12,000	12,000
県青少年補導委員連 絡協議会負担金	件数	1	1	1	1
	金額	20,000	20,000	20,000	20,000
	件数				
	金額				
	件数				
	金額				
	件数				
	金額				
ア)の①に含まれる負担金 等合計金額及び割合	合計金額	32,000	32,000	32,000	32,000
	割合	3.15%	3.64%	3.19%	2.56%

* 行が足りない場合は追加してください

●事業の評価(CHECK)

8 妥当性評価

* 妥当性=行政がこの事業を行う必要性はあるか。

妥当性

高い

評価項目	はい	いいえ
① 現時点で、税金を投入して積極的に関与するべき重要な分野である。	1	
② 民間(企業、NPO、市民団体等)へ委ねることが難しく、市が行う必要がある。	1	
③ 民間(企業、NPO、市民団体等)が行うサービスと類似・競合していない。	1	
④ 国・県の事業、市が行っている他の事業と類似・重複していない。	1	
⑤ この事業の効果は広く市民に還元され、特定者の利益にはなっていない。	1	

9 有効性評価

* 有効性=成果指標(項目7/住民の満足度)は向上しているか。

有効性

低い

評価項目	はい	いいえ
① この事業が属する施策において、この事業の優先度が高い。		0
② 社会情勢の変化や市民ニーズを把握し、今年度の事業内容に反映した。	1	
③ この事業の目的を達成する上で、現在の方法が最も効果的で低コストである。	1	
④ この事業の利用者が増加した。	成果指標の実績値	前年度比
	96.5%	0
⑤ 年度当初に期待した成果が得られた。	成果指標の目標値	達成度
	97.3%	0

●改善の内容 (ACTION)

10 具体的な課題と改善

課題	<p>(少ない費用で効率的に事業を行い、市民サービスを向上させる上で、現在課題になっていること)</p> <p>愛護委員のパトロールに対するモチベーションの維持 仕事を持つ委員が多く、国が期待している通学時間帯のパトロールを担える委員が少ない。</p>	
	改善方法	<p>(上記の課題をふまえて2年度以降に実施する、具体的な改善の内容)</p> <p>研修等を通じ、継続して行われるパトロールの犯罪抑止力について、再認識いただける機会を持つ。 学校から委嘱されている見守り隊の活動や、区の防犯パトロールなど活動内容は似ているが、愛の声 がけによるパトロールが今後どうあるべきか、県外を含め他市の先進事例等を参考に検討する。</p>
		改善開始時期

●次年度の計画 (PLAN)

11 次年度の方針	継続して実施	12 施策評価による2年度の優先度 *H30年度施策評価表より転記すること	C
-----------	--------	--	---